

国際理解セミナー「ムスリムの日常」を開催しました

鈴鹿市には外国人人口の約5%にあたる数のムスリムの方が住んでいます。地域の日本語教室にも徐々にスリランカの人が増えてきました。そこで、12月2日にイスラム教やムスリムの日常について理解を深めてもらうためのセミナーを開催しました。



講師は鈴鹿大学 国際地域学部の竹野富之先生で主に東南アジアのイスラム研究を専門としていらっしゃいます。そしてゲストスピーカーとして同大学・同学部の留学生さん2名にご参加頂きました。ひとりにはバングラディッシュ出身のライハン エムディさん。もうひとりにはパキスタン出身のアラム ムハンマドさんです。お二人ともムスリムの方で、テーマに沿ってお国の事情をお話し頂きました。

まずは、イスラム教の基礎知識の六進五行について説明をして頂きました。特に五行(信仰告白・礼拝・断食・巡礼・喜捨)のお話の中では、イスラム教やムスリムの生活について、誤解されやすい部分にも触れられ認識を新たにしました。印象に残ったお話としては、

【女性のエチケット (アウラ)】

イスラムでは**女性の保護が重視**されるため女性の行動が一定の制約を受けることがある。**美しいものは隠す**という考えの元、例えば女性は体のラインが出すぎない服装をするのが好ましい。また髪の毛も隠した方がよい。アウラは、各国の文化や伝統によって異なる。例えば、マレーシアではスカーフで髪を隠せばよいと考えられているが、アラブ諸国では顔を隠した方がよいと考えられている。

【一夫多妻制について】妻は4人まで持てる。**但し全ての女性に平等に与えなければならない**。アラビア半島は、当時多くの女性を抱えていて10人、20人、場合によっては100人など！妻を持てたが、教義上制限する形で4人までとなった。1人⇒4人に増えたわけではない。

*** 良く女性蔑視と言われるが、逆に女性は守るべき者として大切にしている為に誤解が生じやすい。**

【ワクフについて】イスラム独特の財産寄進制度。特にモスク建築や運営などに活用される。また五行の中には、ザカートと言って富める者は貧しい者に与える。ムスリムは所有通過の2.5%を、所有家畜の0.8~2.5%を救済税として支払う。

【ハラル】イスラムの教義上、好ましいものと判断される行動を意味する。食品はアルコールと豚肉が禁じられていることは有名だが、他の食肉もイスラムの教えに則った方法で屠畜・加工(定められたやり方で屠畜する、血を抜いてから解体する)されている。日本では宗教上のハラルとビジネスのハラルを同一視している為、**混乱が生じている**。

実際ムスリムはハラルかどうかを自分の意志で判断する。ハラルマークはその手助けをする補助的なもの。また病気の時は、アルコールを使用した薬を使用しても問題ない。全て各家庭の判断におかれている。

【エチケットについて】

・テーブルマナー・・・料理は右手の指を使って食べる。食後、皿をなめるのは下品。足の裏を相手に見せるように座るのも下品とされる。

・トイレ事情・・・トイレトペーパーを使用せず左手の指をうまく使ってふき取る。その後トイレに備え付けであるホースを使ってお尻についた汚物を流す。

【埋葬について】・・・死んで魂が抜けたら自分の戻る身体を探すため火葬はできない。土葬が基本だが埋葬場所が少ないことが課題である。

女性蔑視と言われることについても、その行動の意味をよく理解する必要があると思いました。

留学生のお二人からは、病気をしたら何か悪いことをしたからだと思い神様に謝る。とか、悪いことがあってもその後には良いことが来るからポジティブに考える。など、常にアッラーを意識した意見が聞かれその素直さがとても印象的でした。そして、コンビニにハラルのものが置いてあったらいい。学校にもお祈りの場所があると良い。金曜礼拝は遠方のモスクに行くのが大変だという困難も教えてくれましたが、友人もたくさん出来、近所にも知り合いが多くなり楽しく暮らしている様子が伺えて微笑ましかったです。

私たちはムスリムの日常生活についても関心を払い、社会としてどのように受け入れていくべきか考えていきたいです。

